

令和 6 年度堺市がん対策推進委員会 会議録

日 時 令和 6 年 10 月 27 日 午後 2 時～3 時 30 分

場 所 本庁 6 階 会議室

出席者 西田会長、平松副会長、浦嶋委員、浦田委員、川口委員、川崎委員、久保委員、
橘委員、中川委員、温井委員、渡邊委員（副会長以下 50 音順）

1 挨拶（健康福祉局 保健医療担当局長）

2 委員紹介及び会長・副会長挨拶

・西田会長

がんは予防、早期発見、早期治療が基本であり、この委員会を通して市民の健康状態の改善につなげることができたらと思っている。

・平松副会長

西田会長もお話しされたが、がんは予防、早期発見、早期治療が基本である。病院としてもがん対策について取り組んでおり、今年もがん啓発のイベントを開催した。感染症も落ち着き、今年は来場者も増加し、がんに対する関心度は非常に高いと痛感した。堺市は二次医療圏と行政がぴったり一致した市町村ということで、がん検診やがん対策が進んでいくといいと考えている。

3 案件 1 堺市におけるがん対策の取組状況について

○国のがん対策推進基本計画とさかい健康プランの概要

令和 5 年 3 月に策定された国のがん対策推進基本計画の第 4 期計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」を全体目標とし、がん予防、がん医療、がんとの共生という三つの柱を掲げ、目標達成に向けた施策に取り組むとしている。さかい健康プランは、「すべての市民がいくつになっても、心身ともに健康で、充実した生活を送ることができる社会の実現」をビジョンとし、誰一人取り残されることの無い健康増進活動、より実効性を持つ取組を推進するものとしている。

さかい健康プランでは本市のがんの状況として、罹患率について、男女ともに大阪府と同様の推移をたどり、男性は大阪府と比べて若干罹患率が高い状況。がんの死亡率についても、同様に大阪府と同じような推移をたどっているが、大阪府と比べて男女ともに若干死亡率が高い傾向にある。堺市民の死亡原因のうち 3 割弱ががんであり、死因の第 1 位となっており、本市においてもがん死亡の減少は喫緊の課題となっている。

○がん予防の取組

受診率向上の取組について、堺市で実施しているがん検診（査）は昨年度とほぼ変わりないが、国の指針に基づき、子宮がん検診の制度変更を行った。今年度より、子宮頸がん検

診として実施し、令和7年度には、乳がん検診の制度変更を予定しており、視診・触診を廃止し、マンモグラフィーのみの単独検診に移行する。これまで、2回の受診が必要だったところ1回の受診で検査が受けられるようになる予定。

平成30年度からがん検診の自己負担金無償化を開始し、令和5年度に5年間の効果検証を行い自己負担金無償化開始後、受診率が向上した。自己負担金無償化は受診率向上に一定の効果があるとし、令和6年度も継続して実施している。

昨年度の委員会での委員のみなさまのご意見を踏まえ、取組を進めている。

個別受診勧奨の実施では、今年度より堺市国保の特定健診と同時に受診勧奨を行ったり、SMSを活用して、国が受診率向上のエビデンスを示している受診勧奨・再勧奨を実施したり、取組を進めている。

がん検診の制度周知やがんに関する啓発では、花屋、浴場施設、理美容室など、様々な企業に協力をいただき、検診に関心がない層にも情報発信ができるよう取り組んでいる。薬剤師会の浦嶋委員からお声かけいただき、昨年度より薬局での情報発信も開始している。がん予防と一体的な啓発を進めるため、堺市医師会のご協力で、感染症とがん予防という講座を各区で実施した。若い世代への意識付けやリテラシーを上げていくことが大事とのご意見をいただき、AYA世代のがん啓発や関西大学と連携し大学生などの若い世代への働きかけを意識した取組を進めている。

今年度の取組ポイントとして、子育て世代・働く世代が受診しやすいよう、受診までの負担を軽減する目的で、主にDX化を推進する取組を重点的に実施している。できる限りワンストップで予約までつながるよう検索機能を強化し、WEB予約を行っている医療機関のリンク対応を行うなどを予定している。

また、イベント等の場で、歯周病予防と大腸がんの啓発、子宮頸がんワクチンの啓発も検診の啓発に盛り込み、がん予防との一体的な啓発を実施している。さらに、ターゲット層に応じたPRが大事とのご意見をいただき、ハニワ部長にがん検診をPR、動物などを使ったPRでかわいさも盛り込んだ。関大の学生とコラボした媒体も作成予定で、若い世代の目線での情報発信やPRが新たにできればと考えている。

○がん検診と受診率向上

がん検診の精密検査の受診率について、令和4年度も大腸がん、子宮がん、肺がんの受診率が許容値に満たない状況になると推察している。

昨年、精密検査未受診者への対策を行うべきとのご意見をいただき、今年度は、追跡調査の時期や内容を見直し、早めに受診勧奨や調査が行えるよう保健センターと連携して取組を進めている。医療機関にも働きかけ、少しずつ結果報告もいただけるようになった。

引き続き、精密検査の未受診者対策についても取組を進めていく。

○がんと共生

がんと共生の本市の役割として、市民ががんになっても、正しいがん情報を取得し、適切な医療、支援や相談につなげることができるよう後押しすることと考えている。

主な取組として、患者会の運営支援や、がん拠点病院・医師会等と研修会の開催などの連携した啓発活動を行っている。加えて、協定企業との連携を通じて正しいがん情報を届けている。また、地域や職域へがん患者への理解を促進していくことも大変重要であると考えており、市民ががんになっても偏見や不安にさらされることのない地域、安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現のために、アピアランスケアやがんに関する知識の普及啓発など、広く情報発信を行い、がん教育も推進していきたいと考えている。

○今後の対策

がん対策の課題であるがん検診の受診率向上やがんと共生する社会の実現のため、効果的ながん検診の実施と受診しやすい環境整備、検診制度をはじめとした正しいがん情報の発信・啓発、関係機関と連携した啓発や支援活動に取り組みながら、がんによる死亡の減少、がんとの共生、ひいては堺市民の健康寿命の延伸につなげていきたい。

【質疑・意見】

・西田会長

昨年の皆様からの意見を反映した取組も行っているという市の報告を受けてのご意見を伺いたい。

昨年度の委員会後に、浦嶋委員の働きかけで薬局でも啓発ができるようになったとのことだが。

・浦嶋委員

各薬局の反応はまだ確認できていないが、薬局はコンビニエンスストアよりも多いといわれているため、啓発の成果はあったのではないかと。

昨年度のゴルゴ13のコラボポスターは部数が少なかったことからすべての薬局に配架することはできなかったが、引き続き、市から提供を受けたポスターの掲示や配架で薬局での啓発を継続し、状況を聴取したいと思っている。

・西田会長

薬剤師会は学校との関わりも深い。ぜひモデル的に連携した取組を進めていただきたい。先ほど、歯周病とがんの一体的な啓発を実施したという報告もあった。歯周病は、がんだけでなく、心臓病などにも関わると言われているが。

・浦田委員

歯周病に関しては、大腸がんはもちろん心臓血管系の疾患、脳血管疾患、様々な疾患と関連があると言われている。重症な歯周病を持っている人の全身疾患との関連性について今後重要になってくると考える。堺市でも成人歯科検診を実施しているが、受診率が低い現状があるため、がん検診と併せて総合的に啓発ができたらいいいのではないかと。

- ・西田会長

若い時には口腔の衛生環境については意識していなかったが、大腸や心臓疾患などに関わっていることから、年々意識するようになった。ぜひ総合的に啓発をしていただきたい。

- ・橘委員

がんの一次予防について、感染症とがんというテーマで講演を行った。「さかい健康プラン」の概要には生活習慣についての記載があるが、感染症も大きくかかわっているため、市としても意識していただきたい。感染症の制御はがん予防に大きく関わっていると分かる。ピロリ菌や HPV（ヒトパピローマウイルス）、肝炎ウイルスの検査や、ワクチンの啓発についても市として取り組んでもらえば効果があるのではないかな。

- ・平松副会長

肝臓がんが 7、8 年前から減少傾向にあり、その要因としては肝炎ウイルスがコントロール可能となってきたことが挙げられる。ウイルスに感染していることに気づいていない方もいるため、啓発も大切である。また最近では肥満やアルコールも注目され、脂肪肝からがんの発生が考えられているため、その啓発も重要ではないかな。

- ・西田会長

肝臓がんの罹患は確かに減少傾向にある。HPV ウイルスは女性のことが多く話題になるが、実は男性もあり、咽頭がんは日本やアメリカも増加している。諸外国では男性もワクチンを接種している。

がん対策の一つとして、ウイルスの除去も大切なことなのではないかな。

- ・西田会長

病院内で、講演をしたり勉強会をしたり教育を行っていくことも大変重要であるが、院外（地域）での取り組みについてのご意見やお考えをいただきたい。

- ・平松副会長

市民フォーラムを開催した際に気がついたこととして、がん検診のことを知るきっかけが必要であると感じた。若い世代はネットから情報を得ることができるし、小学生や中高生にはがん教育として病院が講演に出向き、がんについて知ってもらう機会がある。

しかし、ネットになじみのない 60 代以上の高齢の市民に対してはどうするか。

がんフォーラムでのアンケートにはがん検診を受けたほうがいいかという問いに対して、8 割が YES と回答しているが、受診するには自分はどうしたらよいのかわからないという声も聞いた。その場でキャッチしきっかけを作ることが大切なのではないかな。

高齢者に対しては、問い合わせ先の周知を意識するとよいのではないかな。

受診のしやすさという点、夜間検診は非常に重要と感じる。必要性は理解しておりがん検診を受けたいが、平日昼間は時間が合わずという声も働いている人から多く聞く。環境整備にかかる対策も検討していただきたい。

・川崎委員

当院でも講演や公開講座を行っているが、昨今医療利益が低下している中、私立病院であることから利益の追求、集客が第一となってしまう部分があった。しかし、委員に就任してからは、予防についての意識が変わった。市民向けの啓発などは、何を目的としているか明確にしながら、メリハリをつけてやっていくことが必要だと感じている。

また、看護学生への授業を実施する中で、ストーリーの作り方も大切であると感じている。過去に短い動画を授業に組み込むことが効果的だと感じた。

市のホームページ等でもショート動画を載せたり、キャラクター等を動かしてみたりすることで市民の目にとまり、より効果的な啓発になるのではないかと。

・西田会長

川崎委員の言うとおりに、ホームページに動画を掲載することは非常に効果的で、閲覧者が増加する。NCCHのホームページで手術動画を載せたところ、アクセス数がぐんと伸びた。どのような手術をされるのかという興味をそそることができたためと考えられる。若い世代は特に動画になじみがあるため、興味をひくのではないかと。予算の関係もあるため、堺市でどこまでできるのかというところはあるが、ぜひ検討していただきたい。

・川口委員

美原区のイベントで専門家の講演と当事者の体験談を行った後、同時に乳がん検診の受付をその場で行っていた。平松副会長の話にもあったように、本人が受けたいと思ったその場でがん検診の申し込みができるシステムもいいのではないかと。

・久保委員

昨年の委員会では働いている方が受診しやすい環境として夜間検診があればと話をしたが、同じく障害を持たれている方ががん検診についても気になっている。障害がなくても時間を取って行きにくいと感じている人が多い中、障害を持たれている方は自身で動くことができないし、施設に通われている方もいる。障害のある方への対応についても考えていかなければならないのではないかと。

・中川委員

検診を受ける立場からだと、夜間や休日に受けられることだけでなく、検診を複数同時に受けることができる環境、システムを整えてほしい。がん検診の種類は複数あり、全て

のがん検診を受診するとなると平日に何日も複数の医療機関に受診しなくてはならない。大きな医療機関では人間ドックのように一日で受けることができれば便利になるのではないか。堺市が施設を作れるかわからないが、そのような施設があれば受診率が上がるのではないか。

- ・ 渡邊委員

労働安全衛生法では毎年1回の定期健康診断が義務付けられている。がん検診はこれに該当していないが、どんなに小規模の会社であっても、定期健康診断は実施しなくてはならないため、がん検診を併せて手軽に受けられる環境があれば平日昼間の受診率も増加するのではないか。

- ・ 西田会長

大きな企業は複数検診をカップリングさせて一日で実施しているところが多い。また、川口委員が言うように検診の申し込みを案内するタイミングについても重要で、ある有名人ががんに罹患したというニュースが出た際に、がんセンターのスタッフが検診の重要性をテレビで伝えたところ、検診受診率が大きく増加した事例がある。

人間は認知した際に目の前にあると行動を起こしやすいため、タイミングも大事である。

- ・ 平松副会長

予防についてはたばこや感染症など、個人で予防行動がとれることもあるため、早くから教育を行うことで大きな予防になるのではないか。当院でも中高生にがん教育を行っているが、大きな反響がある。例えば、心臓にはがんができないのですね、がんの細胞ができてから大きくなるのにそんなに時間がかかるのですねといった素朴な感想や質問などがあり、我々にはない観点で見ていることが分かった。子どもなりに一生懸命聞いてくれていることがわかり、がん教育にも力を入れないといけないなと改めて感じた。

- ・ 西田会長

教育は大切で、小中高生にがん教育を行うことで、子どもから家族にも今日こんな先生からこんな話を聞いたと伝えてくれる。家族もがん検診を受けないといけないと意識するという波及効果が期待できる。

- ・ 浦嶋委員

予防の観点では薬剤師会は薬局と連携し、ポスターを掲示した啓発ができる。このサイトがあるということを広めることも掲示するということが生きてくるのではないか。ポスターにこの二次元コードを読むことで検診予約につながるということを前面に出して、薬局に来た人が待ち時間などに申込みをその場でできるというところで貢献できると考

えている。

また、短い動画を載せることは非常に有効と感じており、申し込みに加えて、興味がある方には実際どのような検査を受けるのかというような紹介動画の二次元コードなども載せることで、動画を見た人は検診をイメージしやすく、受診行動につながるのではないかと。

- ・西田会長

最近二次元コードが多く使われている。当院の地域連携でもパンフレット等に二次元コードを載せ、リンク先には動画を掲載するなどしている。

- ・浦嶋委員

二次元コードがあるのとないのとではアクセス数が違うと思う。あれば、なんとなくアクセスしてみようと思う人が多いように感じる。

- ・橘委員

堺市では医療機関での個別受診を実施しており、特定健診や複数のがん検診の同時実施や夜間検診を実施している医療機関もある。確かに全ての検診を受診するにはいくつかの診療所に行かなければならないこともあるが、夜間でも実施していることをアピールすることで受診率は増えるのではないかと。

- ・浦田委員

我々は医学的なリテラシーがあるため、資料に何が書いてあるのか理解できるが、市民はパンフレットを読み、これらの検診の何が違うのか、という疑問があるのではないかと。現状のパンフレットでは字が多いと感じる。

また、申し込みについてもオンラインでというのを検討しているとのことだったが、コロナウイルスワクチンの予約が LINE を使用していた。二次元コードを読む人は元々意識の高い人であるため、手軽なものを使用すれば受診率の増加につながるのではないかと。

また、検診に行ってどんなことをするのか具体的な流れを説明した動画があれば、受診する側も安心して受けることができるのではないかと。ゴルゴ 13 のポスターにもあるように見つけることが怖いのではないということを開発し、検診の敷居を下げることで受診率が上がると考える。

どれもトライアンドエラーで、次年度に結果が出ると考えられるので一つずつやっていきながら、受診率向上に取り組んでもらいたい。

- ・西田会長

堺市は SNS はやっているのか。

- ・事務局

堺市では公式の LINE、X、Facebook などをツールとして持っており、その都度、堺市けんしん総合サイトなどの URL を掲載しながら、情報発信を行っている。

- ・西田会長

SNS は当院でも活用しているが、SNS は対象を絞りながら行うことで効果的に活用できるときいた。AYA 世代に PR したい場合は若い世代の利用率が高い SNS などを使うなど、ターゲットを絞って活用することが効果的と思われる。

がん教育は大切ではあるが、手間がかかる、実際に効果が出るまでに時間がかかるのも事実としてある。

がん予防としては、感染症予防だけではなく、最近アルコールの指針も変更されたことからも、生活習慣病予防も踏まえ、他機関と上手く連携することが必要なのではないかな。

- ・中川委員

乳がん検診は昔毎年受けられたように思う。堺市だけでも毎年受けられるようになったらいいのではないかな。

- ・川口委員

同じように令和 7 年度から視触診検査がなくなるが、その費用が減るので若い世代の 20 代、30 代にも受診資格を与えることはできないのかな。

- ・西田会長

がん検診の対象年齢や受診間隔に関してはエビデンスが必要で、国の指針（政策）によるところなので、堺市だけでは決められない現状がある。

また、がんとの共生については国も力を入れており、就労支援、アピアランス、ピアサポーターをはじめとしたサポーター育成などが重要視されている。がん拠点病院には相談支援センターが必ず設置されているが、医療側のサポートだけではなく、医療以外のサポートが重要であるといわれている。地域産業保健センターは全国どこにでもあるものではないので、堺市の特徴として連携しながらやっていくのがよいのではないかな。

- ・川崎委員

がん患者支援についてはコメディカル（看護師やソーシャルワーカー等）の力が発揮されるところであるが、医師もコメディカルと連携して患者を支援していくことでサポート力を高めることができるのではないかな。患者に寄り添うという力に関してはコメディカルが強いと感じる。

・川口委員

自身が乳がんと分かった時には自分だけが乳がんなのではないかと思うくらいに周りに患者がいなくて感じていた。もし身近にがんの人がいても互いのがんであることを話すような機会もなかったため、孤独感があった。治療する前に体験者の方と病院などでお会いしたかったという思いがあり、そのようなサポートがあればいいなと感じている。

・西田会長

個人的には医療側と患者側（ピアサポーター）の役割は違うと感じており、両方のサポートが必要と感じている。ピアサポートを推進するうえで、ピアサポーターも受ける側の患者も傷つかないようなプログラムもあるため、活用しながら進めていけたら。

・中川委員

がん患者の家族の意見として、がんは医師と患者だけではなく、家族や看護師など周りのスタッフも含め、みんなで支えていくものと思っている。医師だけが患者と向き合うのではなく、伝えにくいことは周りから伝えたり、患者の意見を聞いたりすればいいのではないのか。がんと共生するということは患者だけが向き合うのではなく、家族や医療者などが患者と一緒にがんを克服していくことなのではないかと感じた。

これから患者も家族も、今がんと関わりがない方もみんなががんと向き合って、がんがどういうものかを知っていくことが大切だと考える。

・西田会長

就労支援については、大阪府でも推進されているが、未だ十分でなく、がん患者が治療しながら働き続けられるように両立支援が重要となっている。その理由としてはがんと診断されても生命予後が良くなったこと、がん治療の費用が高いことなどが挙げられる。

・渡邊委員

厚生労働省では両立支援についてのガイドラインを策定し、今は辞職せずに治療を進め、少しでも長く勤めてもらえるような取組が進んでいる。しかし、病気休暇制度がある大企業などはいいが、中小企業では制度がないところもあり、退職せざるを得ない企業もある。病気休暇制度があっても無給のところもあり、支援が不十分である。両立支援とガイドラインの周知を引き続き進めていくことが大切であると考えます。

・温井委員

がんにかかる保険については毎月給付や一時金などもあるため、会社によって病気療養ができる環境であれば、療養中については保険で保障が可能な場合もあるが、両立支援は重要である。

- ・平松副会長

近年抗がん剤が進歩し、長期治療や高額な薬剤で一定の効果があつた方もいる。その場合に経済的な理由で治療の選択を悩まれる方もいるため、がん相談支援センターにつなぎ、具体的にどう治療をしていくか積極的に相談できるようにしている。

- ・西田会長

がん相談支援センターに相談してもらえれば支援につなぐことができる。病院には患者を様々な支援につなげることが求められている。就労と治療の両立で経済的にも生活が成り立つため、医療者も行政も両立支援に協力していくことが大切ではないか。

- ・西田会長

堺市に今後検討してもらうこととして、ショート動画の活用、がん検診啓発のタイミングを上手に行うことなどが委員からの意見としてあがっていた。様々な試みを行っているところであり、引き続き調和させながら、がん対策を進めてほしい。

- ・橘委員

要望として、堺市はがん検診の自己負担金無償化を実施しているが、無償化によって受診率は増加し、効果がみられているため今後も続けてほしい。

- ・西田会長

大阪府は全国の中でも受診率が低く、無償化前は大阪府内の中でも堺市は低かった。無償化後、ようやく平均まで上がってきたのもう少し頑張っていただきたい。

対策型検診と職域検診と合わせられれば 50%ほどになるとされる。どちらも把握できる仕組みの実現に向け、大阪府にも要望しているところ。

引き続き、堺市のがん対策について当委員会でも審議していきたい。

終了